

現行都市計画マスタープランにおける記載内容		主な取組等	事務局案骨子
項目	具体的な内容		
3つの基軸	帯広市の発展と都市形成の歴史、都市機能の集積状況などを踏まえ、次の3つの軸を都市を支える基軸とし、まちづくりの基本方向にもとづき、都市機能や都市基盤を有効に活用し、まちづくりをすすめる	（論点） 東西、南北、外環の3つの軸を基軸としたまちづくりを引き続き進めていくこととしてよいか。 （主な取組） ・現在の東西軸、南北軸を結ぶように弥生通や中島通、弥生新道、共栄通が整備され、その周辺には都市機能や住宅街、商業施設等の集積が図られている。	▶都市を構成する次の3つの軸を基軸とし、都市の骨格を形成する。 また、基軸を有効活用したまちづくりをすすめる。
1)東西軸	国道38号やJR根室本線を軸とした市街地の東西を貫く地域一帯	（主な取組） ・弥生通や中島通、弥生新道の整備により、東西軸と南北軸間のアクセスが向上した。 ・中心市街地を起点として東西を貫く白樺通周辺には、帯広競馬場や大規模病院が集積されている。 ・弥生通や中島通、弥生新道、白樺通についても、東西軸を補完する役割を担っている。	▶国道38号やJR根室本線を主軸とし、市街地の中心を東西に貫く弥生通、中島通、弥生新道、白樺通を補完軸とする。
	▶東西軸上に集積された都市機能と交通アクセスの良さを有効に活用し、周辺への相乗効果、波及効果をはかるまちづくりをすすめる		▶国道38号やJR根室本線の軸上に集積された都市機能の他、弥生通、中島通、弥生新道、白樺通など交通アクセスの良さを有効に活用し、周辺への相乗効果、波及効果をはかるまちづくりをすすめる。
2)南北軸	国道236・241号を軸とした市街地の南北を貫く地域一体	（主な取組） ・市内の中心を南北に貫く弥生新道が整備され、音更帯広ICと帯広川西ICが繋がったことにより、交通・物流機能の向上が図られた。 ・南北を貫く共栄通の整備が完了することにより、音更帯広ICから市街地への交通アクセスの向上が見込まれる。 ・弥生新道周辺には、帯広畜産大や流通団地、工業団地、共栄通周辺には、帯広競馬場や大規模病院、緑ヶ丘公園などの都市機能が集積されている。 ・弥生新道及び共栄通周辺の都市機能集積状況や交通アクセスの良さは、まちづくりを進めるうえで南北軸を補完する役割を担っている。 ・弥生通や中島通の整備が完了したことにより、国道236号、弥生新道、共栄通間の連携が向上した。 ・国道236号、弥生新道、共栄通間の連携向上による、都市全体への活力導入効果は高い。	▶国道236号・241号を主軸とし、市街地の中心を南北に貫く弥生新道、共栄通を補完軸とする。
	▶交通・物流基盤を活かし、都市全体への活力導入をはかるまちづくりをすすめる		▶国道236号や弥生新道、共栄通の軸上に集積された都市機能と交通アクセスの良さを有効に活用する他、南北軸と東西軸が相互に連携しあうことで、交通・物流基盤を活かし、都市全体への活力導入をはかるまちづくりをすすめる。
3)外環軸	帯広の森や帯広畜産大学などを含む、市街地から農地へと切りかわる概ね帯広・広尾自動車道までの地域一体	（主な取組） ・緑を活かした交流空間の充実や緑のネットワーク形成、エコタウンの造成などにより、環境共生型の都市づくりが進んでいる。	現状のまま
	▶帯広の森に代表される田園都市づくりを継承し、緑を生かした交流空間の充実をはじめ、緑のネットワーク形成により環境共生型のまちづくりをめざす		現状のまま

都市を支える3つの基軸

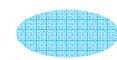


都市を支える3つの基軸

凡例



基軸

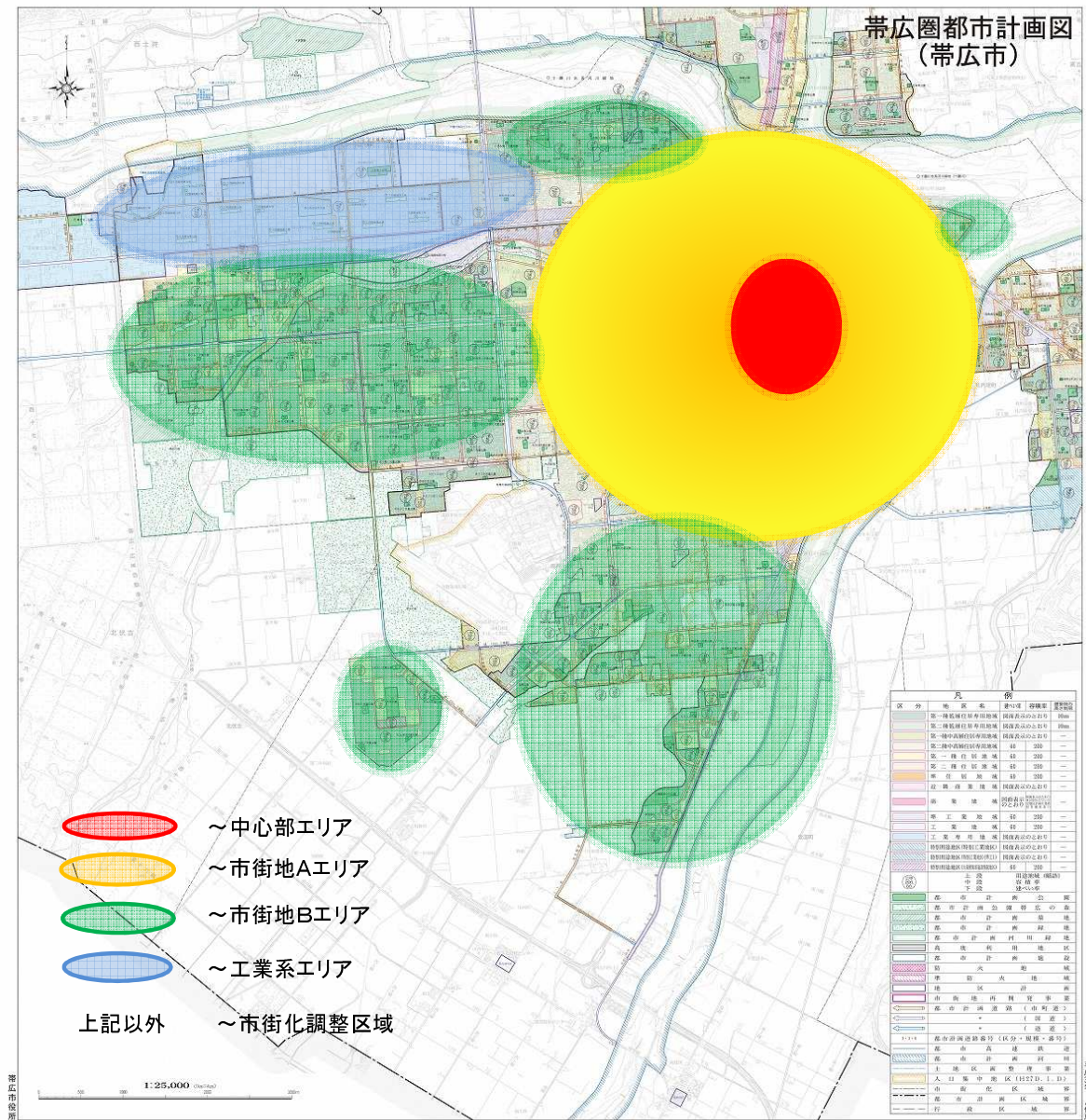


都市機能など



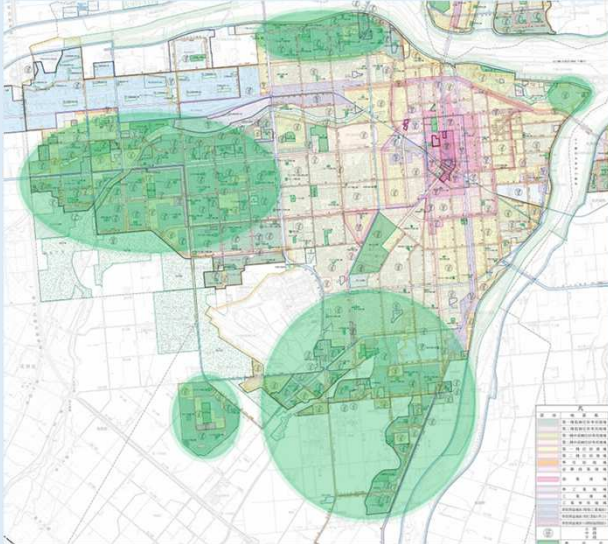
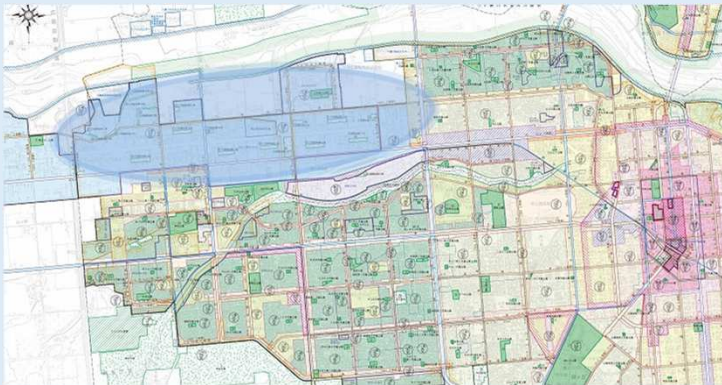
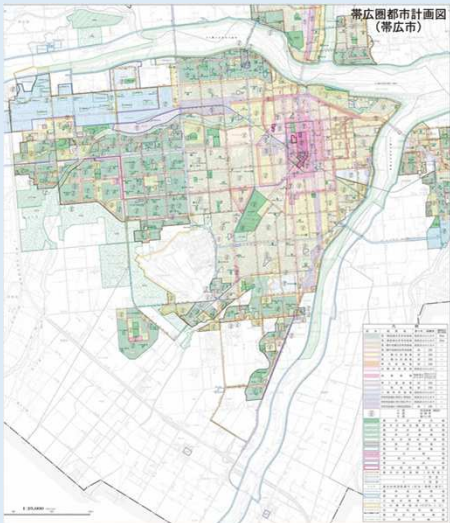
補完軸

5つのエリア参考図



- ・中心部エリア ～商業、医療、福祉、居住、交通などの都市機能が高密度に集積するエリア
- ・市街地Aエリア ～住宅のほか、商業、医療、福祉、業務系などの生活に必要なサービス利便施設が立地するエリア。
- ・市街地Bエリア ～主に低層系の一戸建て住宅や共同住宅などが立地する閑静な住宅地のエリア。
- ・工業エリア ～主として工場や流通業務施設などが集積するエリア。
- ・市街化調整区域 ～主として市街化を抑制するエリア。

エリア	現行都市計画マスタープラン における記載内容	帯広市の取り組み等の一例	専門部会での論点と 各エリアの現状などの一例
3つのエリア(現行都市マス) ↓ 5つのエリア	「3つのエリア」を中心に市民や事業者の主体的な取り組みを支援する		(専門部会における論点) ・都市を、各々のエリアの特性を活かした5つのエリアに区分けして、都市づくりを進めてはどうか。
1) 都心エリア (現行都市マス) → 中心部エリア※帯広駅周辺	(位置付け) 十勝の顔として魅力を高めることが求められる場所 (課題) ▶車社会の進展や市街地の拡大、大型店の郊外出店など様々な要因により、都心の活力が低下し、空地や空店舗が増加するなど、まちの顔としての魅力・賑わいが失われてきている。 (取組方針) ▶市民、事業者や行政の協働のもとに、十勝・帯広の顔にふさわしい都心をつくり上げていく	・市街地再開発(まちなか居住促進) →開広団地、西3.9周辺地区 ・大規模集客施設の都心エリアへの誘導 ・中心市街地活性化基本計画の推進 ・まちなか居住の推進 ・土地の高度利用 ・帯広第2合同庁舎早期建設要望 ・借上市営住宅 ・住宅取得支援制度 ・宅地開発助成 ・住み替えサポート ・住宅リフォーム支援 ・配水管の耐震化 ・インフラ整備(公園、道路など) ・地域優良賃貸住宅補助事業	(専門部会における論点) ・十勝帯広の顔として、どのような課題を抱えているか。 ・中心部の特性を活かし、どのような方針をもって取り組みを進めていったらよいか。 (エリアの現状などの一例) ・まちなか居住者の減少。 ・郊外型の大型ショッピングモールなどの立地による影響がある。 ・空き店舗数は減少傾向にあるが、まちの顔としての魅力が低下し、賑わいが不足している。 ・立地する業種等の変化。 ・自動車への依存による影響。
2) 住環境充実エリア (現行都市マス) → 市街地Aエリア ※帯広駅から半径1km～3km程度	(位置付け) 植民区画を中心とした古くからの市街地 (課題) ▶郊外の住宅地は都市基盤などが計画的に整備されてきたのに対し、このエリアの一部では、都市計画道路の未整備や公園緑地の新たな配置が課題となっている。 (取組方針) ▶都市基盤の整備を推進するとともに、多様なライフスタイルやワークスタイルを支えるエリアとして、市民や事業者による住居、関連機能を充実していく活動を支援していく。	・地区計画※の策定 ・住宅取得支援制度 ・住み替えサポート ・住宅リフォーム支援 ・市営住宅の全面改善等の実施 ・配水管の耐震化 ・生活利便施設の適正配置 ・インフラ整備(公園、道路など) ・宅地開発助成 ・地域優良賃貸住宅補助事業 ※地区計画とは、地区レベルで建物の建て方などのルールなどを具体的に定めたもの。	(専門部会における論点) ・中心部を取り囲むエリアとして、どのような課題を抱えているか。 ・中心部を取り囲むエリア環境の特性を活かし、どのような方針を持って取り組みを進めていったらよいか。 (エリアの現状などの一例) ・人口密度が将来的に低下していく可能性がある。 ・高齢化率が高い。 ・比較的古い建物、公共施設、都市施設・社会インフラなどが多く見られる。 ・空き家率が他のエリアより比較的高い。 ・住宅と工場などが混在した地域が見られる。 ・準防火地域に指定されている宅地が存在する。

3) 市街地Bエリア ※帯広駅半径3kmを超える市街化区域など (現行都市マスには位置づけなし)	(位置づけ)		・地区計画の策定 ・市街化区域拡大の抑制 ・住宅取得支援制度 ・住み替えサポート ・住宅リフォーム支援 ・市営住宅の全面改善等の実施 ・配水管の耐震化 ・生活利便施設の適正配置 ・インフラ整備(公園、道路など) ・宅地開発助成 ・地域優良賃貸住宅補助事業	(専門部会における論点) ・このエリアは、どのような課題を抱えているか。 ・中心部から離れた環境などの特性を活かし、どのような方針をもって取り組みを進めていったらよいか。 (エリアの現状などの一例) ・道路などのインフラが比較的新しい。 ・人口が多い。 ・宅造時期に合わせて同世代が居住している区域が多い。 ・開発時期に準じた高齢化が生じる。
	(課題)			
	(取組方針)			
	(位置付け)		・新しい工業団地の整備 →西20条北地区、西19条北地区の造成 ・地域産業の育成 ・企業誘致の推進 (奨励金、融資、立地補助など) ・産業振興ビジョンの策定	(専門部会における論点) ・工業エリアは、どのような課題を抱えているか。 ・産業の振興に向け、このエリアの特性を活かし、どのような方針をもって取り組みを進めていったらよいか。 (エリアの現状などの一例) ・工業地造成。 ・工業地内の業種の混在(食品、建設、製造、物流など)。 ・工業用地の不足。
	(取組方針)			
4) 工業エリア (現行の都市マスには位置づけなし)			(位置付け) 市街地の南側一体	(専門部会における論点) ・市街化調整区域は、どのような課題を抱えているか。 ・市街化区域を取り囲む市街化を抑制すべきエリアについて、どのような方針をもって取り組みを進めていったらよいか。
				
5) 都市と農村の交流エリア (現行都市マス)	(位置付け)		・工業系用途への市街化区域編入 ・市街化の抑制 ・帯広の森の整備及び活用 ・環境に配慮した農業の推進 ・資源循環型の土地利用の推進 →中島地区 ・農村集落について都市計画制度の活用 →新川西地区、中川西地区、愛国地区 ・市街化調整区域における地区計画制度の活用 →新川西地区	
	(取組方針) ▶農業を主体とした土地利用を維持しつつ、地域特性を生かした農業者と都市住民による多様な活動や新たなビジネス展開など、田園都市にふさわしい活用等を支援していく			